

北区医療環境調査 令和2年度報告書（概要）

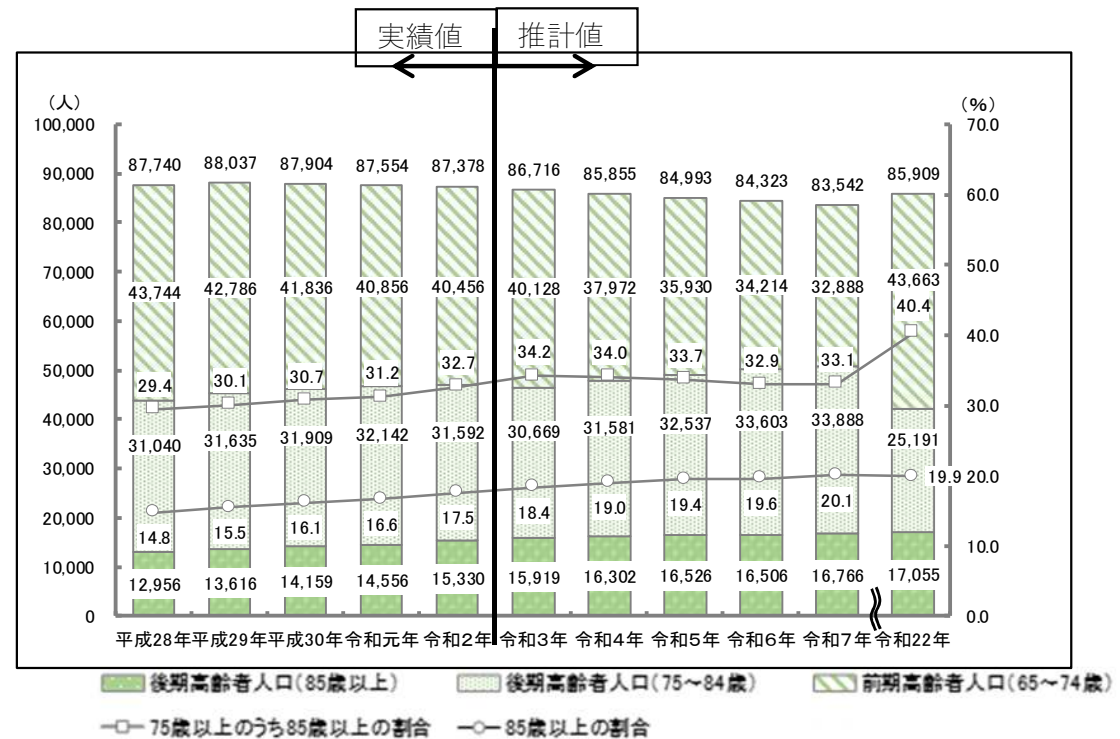
【序章（背景）】

1. 地域特性と人口構成・推計（P 1）

○複数の区及び埼玉県と接しており、交通の便が良く、区外の医療施設等へのアクセスも良いため、区外の医療環境なども考慮する必要がある。

○特別区の中でも高齢化率が高く、今後、医療介護福祉の課題がさらに大きくなると予想される。

人口の推移



北区医療環境調査 令和2年度報告書（概要）

【第1章 健康状態の概要】

2. 死因・平均寿命と生活習慣病（P5）

○主要疾患の標準化死亡比（年齢構成の違いを除去して、死亡状況を比較する指標）を特別区及び東京都と比較すると、特に男性が高く、疾病別の北区の主要死因1位の悪性新生物（がん）、2位の心疾患は男女ともに高い。

○糖尿病、脳卒中、心臓病の既往歴がある人数は、40代～50代の幅広い年代において都全体よりも高い。

3. 特定健康診査等に関する所見（P8）

○主要疾患の標準化死亡比（年齢構成の違いを除去して、死亡状況を比較する指標）を特別区及び東京都と比較すると、特に男性が高く、疾病別の北区の主要死因1位の悪性新生物（がん）、2位の心疾患は男女ともに高い。

○糖尿病、脳卒中、心臓病の既往歴がある人数は、40代～50代の幅広い年代において都全体よりも高い。

4. 一人当たりの医療費（P4）

○北区の外来・入院の一人当たり医療費は特別区の中で高い傾向にあり、特に慢性腎臓病（透析有）の一人当たり医療費は、外来・入院ともに都平均より高い。

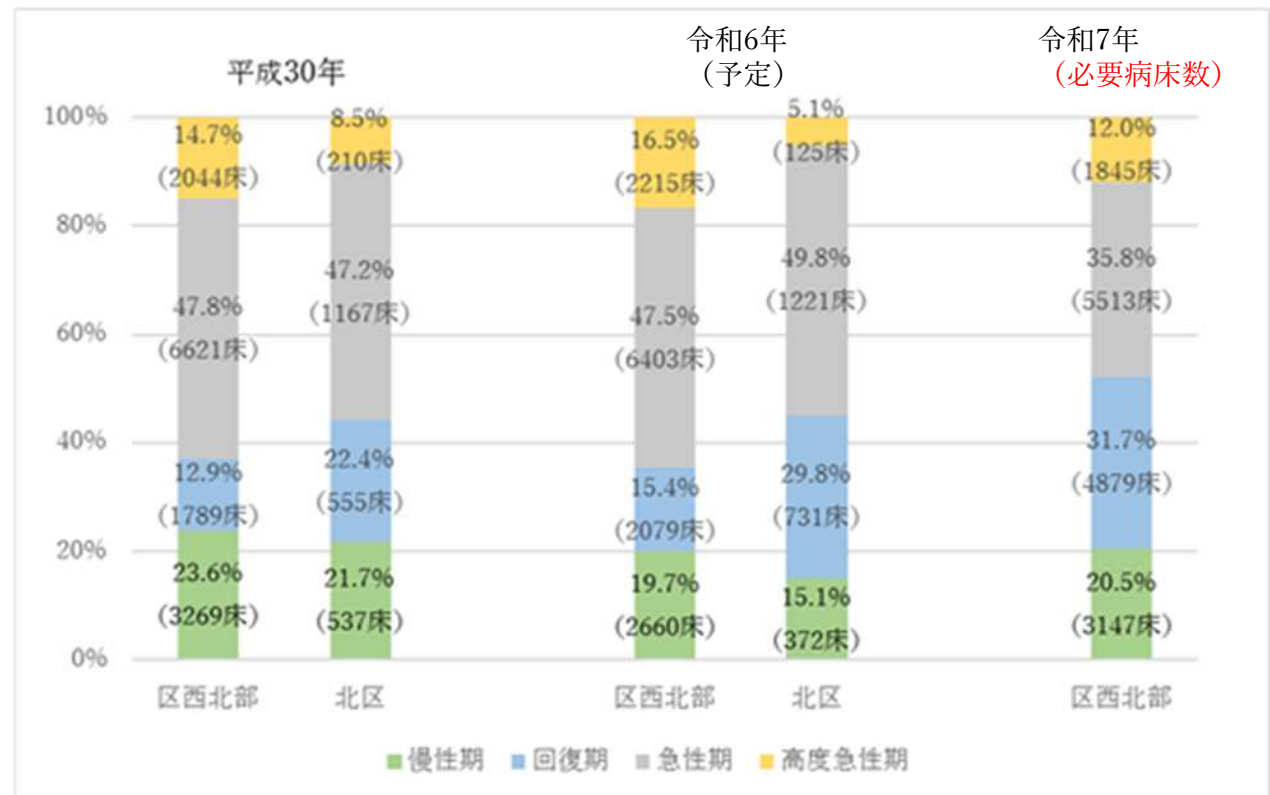
○生活習慣病のうち、一人当たりの外来・入院医療費が高いのががん（悪性新生物）であり、がんの医療費も都平均より高い。

北区医療環境調査 令和2年度報告書（概要）

【第2章 北区及び周辺区の医療環境】

5. 区西北部保健医療圏及び北区の病床の状況と6年後の予定、令和7年必要病床数（P17）
 区西北部区域全体では、大学病院等もあることから、高度急性期及び急性期の病床の割合が高いが、回復機能及び慢性機能の病床が少なく、将来的に必要な数が不足することが、予測される。

※令和7年必要病床数は区西北部のみで示されており、北区の数値はなし
 （平成30年7月1日時点）



北区医療環境調査 令和2年度報告書（概要）

【第3章 北区及び周辺の医療提供状況】

※下表「施設種類別の数」

施設種類	施設数			人口10万人対施設数			
	北区	区西北部	東京都	北区	区西北部	東京都	
一般診療所	262	1,540	11,943	76.8	80.4	88.4	
診療科目分類	内科系診療所	174	1,012	7,721	51.0	52.8	57.1
	外科系診療所	65	409	3,153	19.1	21.4	23.3
	小児科系診療所	81	454	3,000	23.8	23.7	22.2
	産婦人科系診療所	14	82	833	4.1	4.3	6.2
	皮膚科系診療所	54	341	2,533	15.8	17.8	18.7
	眼科系診療所	25	159	1,230	7.3	8.3	9.1
	耳鼻咽喉科系診療所	21	127	893	6.2	6.6	6.6
	精神科系診療所	27	121	1,298	7.9	6.3	9.6
	病院	19	93	635	5.6	4.9	4.7
歯科	247	1,376	10,545	72.4	71.8	78.0	
薬局	173	921	6,689	50.7	48.1	49.5	

※下表
区西北部保健医療圏内 病院の指定数等

区分	指定等	北区	板橋区	豊島区	練馬区	
機能区分	特定機能病院	0	2	0	0	
救急医療	救命救急センター	0	2	0	0	
	二次救急指定病院	内科+外科	6	12	6	6
		小児科	1	3	1	2
専門医療	脳卒中	急性期	3	12	2	4
		回復期・維持期	19	30	11	12
	CCUネットワーク参画施設		2	5	0	2
	がん医療	都道府県がん診療連携拠点病院	0	0	0	0
		地域がん診療連携拠点病院	0	2	0	0
		地域がん診療病院	0	0	0	0
		東京都がん診療連携拠点病院	0	0	0	1
		東京都がん診療連携協力病院	0	3	0	0
	周産期	周産母子医療センター	0	2	1	0
		周産期連携病院	1	1	0	1
NICU（M-FICUを含む）の病床がある病院		1	2	1	0	
災害拠点病院	災害拠点病院	1	4	1	2	
	災害拠点連携病院	7	10	5	4	

北区医療環境調査 令和2年度報告書（概要）

【第4章 主な疾病の受療動向】

8.疾患別の受療人数（P 29）

後期高齢者の脳卒中、大腿骨頸部骨折が増えており、国保加入者及び後期高齢者の両方で、乳がん、子宮がんの受療が増加していた。がんの中で受療している人数が一番多いのは、大腸がんであった。

9.年度別・疾患別の受療施設の所在地（P 32）

区内での受療が比較的多い疾病は、脳卒中、急性心筋梗塞、大腿骨頸部骨折、胃がんで約40％程度であった。一方、区内での受療が比較的低い疾病は、肺がん（10％未満）、肝臓がん（約15％）であった。

北区医療環境調査 令和2年度報告書（概要）

【第5章 在宅療養の実態】

8.疾患別の受療人数（P 29）

- 在宅医療を行う医療機関（在宅療養支援病院、在宅療養支援診療所、看取り実施の診療所）の数や看取りの実施数（高齢者人口あたり）は、都や区西北部の平均とほぼ同程度である。
- 介護保険の認定者や提供サービスは、要介護が年々増加しており（施設サービス含む）、今後も在宅療養や介護のための施設の充実とサービスの充実が求められる。

※下表 65歳以上人口10万対在宅療養支援病院・診療所数

	北区	区西北部	練馬区	豊島区	板橋区	東京都
高齢者人口（万人）	87,102	438,125	161,361	57,293	132,369	311.1
在宅療養支援病院数	6	22	4	7	5	142
在宅療養支援診療所数	40	241	77	55	69	1,565
高齢者人口10万対 在宅療養支援病院数	6.9	5.0	2.5	12.2	3.8	4.6
高齢者人口10万対 在宅療養支援診療所数	45.9	55.0	47.7	96.0	52.1	50.3

※下表 訪問診療を実施する一般診療所数

	診療所数	65歳以上人口10万対 訪問診療所数
北区	54	62.1
区西北部（北区 を含む）	329	76.1

北区医療環境調査 令和2年度報告書（概要）

【第6章救急医療の現状】

11.救急医療の現状（P 6 1）

- 平成30年度のレセプトを用いた分析では、時間外受診のうち、北区内の医療機関への受診は約60%、区西北部保健医療圏全体では約80%となる。
- 小児救急では、約85%が北区内の医療機関を受診しており、ほぼ北区内で完結できていることがわかる。

12.分娩施設の現状及び所在地・分娩施設レベル（P 7 3）

北区内の医療機関（2施設）で分娩した北区民の妊婦は約3分の1で、若年ほど都外の分娩（多くは里帰り分娩と推測される）が多かった。診療所での分娩の割合は全国平均よりも少なく、近隣に病院や周産期センターが充実していることがその要因と考えられる。

13.災害医療体制(P77)

- 災害医療体制としては、区西北部保健医療圏において、災害拠点病院、災害拠点連携病院、災害医療支援病院、区内においては、緊急医療救護所、医療救護所、医療救護活動拠点が整備されている。
- 今後は、感染症への対応を含めて、有事の時を想定した医療体制の整備と連携を一層進める必要がある。